

繁に起こっています。日本沿岸では、2016年と2022年の夏季に大規模な白化現象を経験しました。日本の海域で唯一の自然環境保全地域に指定されている網取湾では、2016年の大規模な白化現象によって、サンゴの量が64.7%も減少したと報告されています。また、石垣島と西表島の間に位置する石西礁湖で、2022年に平均で92.8%のサンゴが白化したことが環境省の調査で明らかになっています。

### サンゴは静岡県でもみられるのか？

意外と静岡県民の皆さんには知られていないようですが、静岡県の沿岸にもサンゴが生息しています。静岡県は、千葉県と並んで、太平洋側でのサンゴ分布の北限域に位置しており、1990年代には、分布北限域の中で最大といわれたサンゴ群集がありました。そのサンゴ群集がみられたのは奥駿河湾の内浦湾です。サンゴ群集は、エダミドリイシというサンゴにより形成されており、5000㎡ほどの広さをもっていました。現在、そのサンゴ群集は、低水温やガンガゼの食害などの影響を受けて、もとの数%程度に縮小しました。しかし、継続した保全活動により、少しずつ面積を広げています。

内浦湾では2020年に伊豆半島で初記録のサンゴが2種、報告されています。この報告以前は、和歌山県沿岸までしか分布が確認されていなかった種です。また、西伊豆の沿岸域では、サンゴの種類や量が増えつつあります。

### サンゴを守るために何ができるのか？

減少しつつあるサンゴを守るために、まず、私たちにできることは、『サンゴを正しく知る』ことです。ここに書かれていることは、サンゴについての情報のほんの一部です。図書館などでサンゴに関する本や図鑑などを開いてみてください。また、サンゴに関する体験型の学習会などに参加するのも良いかもしれません。加えて、サンゴを知る上で、とても重要なのは、海にいるサンゴを『自分の目で観察する』ことです。本や写真、映像などから得られる知識とは違った学びがきっとあります。

私たちに他にもできることがあります。それは、サンゴのことを知った上で、何ができるのかを『考え、実行する』ことです。例えば、大規模なサンゴの白化現象の発生頻度の増加は、地球温暖化と関係しています。地球温暖化を抑えるには、二酸化炭素の排出量をゼロにしておく必要があります。そのために、私たちに何ができるのでしょうか？また、ここまで紹介していませんでしたが、マイクロプラスチックがサンゴに悪影響を与える可能性を多くの研究が示しています。海洋に浮遊するマイクロプラスチックを減らすために、私たちに何ができるのでしょうか？思いついたことを一つずつ、実行してみてください。そうすることがサンゴを守るにつながっていきます。



今年の夏は、海に行き、サンゴを観察してみませんか？

東海大学海洋学部水産学科 准教授 中村雅子